



日高昭二教授 略歴および諸文目録

1 略歴

1973年3月、早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了。麻布中学校・高等学校教諭、藤女子短期大学専任講師・助教授を経て、1986年4月、神奈川大学助教授に就任、1990年4月、教授。以降、人文学研究所所長、評議会評議員、外国語学部長、学校法人神奈川大学理事を務め、2016年3月、神奈川大学退職、名誉教授となる。

この間、北海道立札幌医科大学、青山学院女子短期大学、千葉大学、早稲田大学（学部・大学院）、日本大学（学部・大学院）、学習院大学（学部・大学院）、文教大学（集中講義）で非常勤講師、北京日本学研究中心派遣教授。

また、財団法人・日本近代文学館評議員、財団法人・神奈川文学振興会評議員、昭和文学会代表幹事、日本近代文学会代表理事、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、市川市文学ミュージアム検討委員などを歴任。

2 諸文目録

1 著書（編著・共著を含む）

『北海道文学の系譜』（共著）1984年9月、北海道大学図書刊行会

『伊藤整論』1985年3月、有精堂出版

『講座昭和文学史 第3巻』（共著）1988年6月、有精堂出版

『文学空間 風土と文化』（共著）1989年4月、桜楓社

『中日関係研究の新思考』（共著）1993年2月、遼寧大学出版

『日本文学史を読むⅥ』（共著）1993年11月、有精堂出版

『大正生命主義と現代』（共著）1995年3月、河出書房新社

『文学テキストの領分 都市・資本・映像』1995年5月、白地社

『二十世紀の日本文学』（共著）1995年5月、白地社

- 『昭和作家のクロノトポス 井伏鱒二』（共著）1996年6月、双文社
- 『Japanese Fiction Writers, 1868-1945』（共著）1997年、ブロッコリー・クラーク・レイマン社
- 『資本文化のモダニズムー『文学時代』の諸相』（共著）1997年1月、ゆまに書房
- 『岩波講座日本文学史 第14巻』（共著）1997年2月、岩波書店
- 『近代文学を学ぶ人のために』（共著）1997年7月、世界思想社
- 『日本文学研究論文集成 35 宮沢賢治』（共著）1998年11月、若草書房
- 『編年体大正文学全集 [大正十一年]』（編著）2002年7月、ゆまに書房
- 『未刊行著作集 19 福永武彦』（共編著）2002年10月、白地社
- 『近代つくりかえ忠臣蔵』（編著）2002年12月、岩波書店
- 『菊池寛を読む』2003年3月、岩波書店
- 『海外新興芸術論叢書（刊本篇）』（全12巻、監修・解説）2003年11月、ゆまに書房
- 『有吉佐和子の世界』（共著）2004年10月、翰林書房
- 『海外新興芸術論叢書（新聞・雑誌篇）』（全10巻、監修・解説）2005年1月、ゆまに書房
- 『文学者の手紙3 大正の作家たち』（共著、※翻刻・解説）2005年9月、博文館新社
- 『日本文芸史 第7巻 [現代I]』（共著）2005年10月、河出書房新社
- 『「改造」直筆原稿の研究』（共編著）2007年10月、雄松堂出版
- 『小林多喜二と『蟹工船』』（共著）2008年9月、河出書房新社
- 『表象としての日本ー移動と越境の文化学』（編著）2009年3月、御茶の水書房
- 『石川淳と戦後日本』（共著）2010年3月、ミネルヴァ書房
- 『夫婦善哉 完全版』（編著・※翻刻・解説）2013年8月、雄松堂書店
- 『安部公房 メディアの越境者』（共著）2013年12月、森話社
- 『占領空間のなかの文学 痕跡・寓意・差異』2015年1月、岩波書店

2 主要論文

- 「『雪明りの路』紀行」（「評言と構想」1980年6月）
- 「『幽鬼の街』紀行」（「評言と構想」1981年6月）
- 「伊藤整とマルクス経済学」（「藤女子大学紀要」1983年1月）

- 「《小林多喜二・1928》への視角」(神奈川大学「人文研究」1986年12月)
 「『蟹工船』の空間」(「日本近代文学」1989年5月)
 「『蟹工船』の黙示録」(「日本の文学」特別集 1989年11月)
 「『枯木灘』から『地の果て至上の時』へ」(「国文学」1991年12月)
 「白昼の奇跡—石川淳と坂口安吾の邂逅」(「早稲田文学」1992年5月)
 「クロボトキン—その予言と現在」(河出書房「文芸」1992年8月)
 「写真の横断または装置としての川端康成」(「日本近代文学」1992年10月)
 「中上健次のアジアとヨーロッパ」(「解釈と鑑賞」別冊 1993年9月)
 「ノラのゆくえ—日本近代劇創出の波紋—」(「神奈川大学評論」1993年11月)
 「『地の果て至上の時』のために—折口信夫によるジャンルの転換」(「昭和文学研究」1994年2月)
 「獄舎の夢—安部公房『榎本武揚』論」(早稲田大学「国文学研究」1994年6月)
 「伝説の見える場所—安部公房『榎本武揚』序説」(「クレド」1994年6月)
 「堀辰雄とモダニズム 天使の詩学」(「解釈と鑑賞」1996年9月)
 「貞操の市場—菊池寛『真珠夫人』ノート」(山梨県立文学館「資料と研究」1997年1月)
 「モダニズムの文法あるいは井伏鱒二」(「日本近代文学」1997年10月)
 「関係の相同性—中上健次の場所をめぐって」(「文学」1998年4月)
 「声の領分」(「文学」1999年4月)
 「坂口安吾の〈戦争〉—アレゴリーの爆弾」(「解釈と鑑賞」別冊 1999年9月)
 「共同体の資本論—菊池寛再考のために」(「日本文学」1999年11月)
 「『マンザナ わが町』—収容者たちの政治学」(「解釈と鑑賞」別冊 1999年12月)
 「菊池寛のいる場所」(「文学」2000年3月)
 「言語の網状組織へ—「頭ならびに腹」私注」(「昭和文学研究」2000年9月)
 「通俗小説の修辞学—中村武羅夫の場所」(「文学」2003年4月)
 「中上健次とアジア—陰陽五行と風水思想をめぐって」(「アジア遊学」

2003 年 11 月)

「堀辰雄とアヴァンギャルド—いわゆる「立体派」の詩脈をもとめて」
 (「解釈と鑑賞」別冊 2004 年 2 月)

「『真珠夫人』と『ユードイット』」(「近代文学研究」2004 年 3 月)

「幽霊と珍獣のスペクタクル—安部公房の 1950 年代」(「文学」2004 年 11 月)

「構成される〈社会〉——中村吉蔵「新社会劇」のドラマツルギー」(東京大学「國語と國文学」2006 年 11 月)

「メディア・コミュニケーション・レトリック—松本清張『点と線』」(北九州市立松本清張記念館「松本清張研究」2007 年 6 月)

「大正期「挿絵入り小説」の問題—『真珠夫人』その他」(「日本近代文学館年誌」2010 年 10 月)

「井上ひさしと文学史 『座談会 昭和文学史』を読む」(「解釈と鑑賞」2011 年 2 月)

「通俗小説の修辞学—久米正雄『螢草』精読」(神奈川大学「人文研究」2011 年 12 月)

「表象としての「光」—生田長江の戯曲「円光」をめぐる」(神奈川大学「人文研究」2012 年 3 月)

「背負う馬の文学史—軍馬・異類譚・アンドロイド」(「文学」2014 年 1 月)

3 解説・解題・月報・座談

「展望—〈ことば〉の喚起」(「日本近代文学」1980 年 10 月)

「吉本隆明論概説」(日本文学研究資料叢書『吉本隆明・江藤淳』1980 年 11 月、有精堂出版)

「中野美代子の現在」(「読書北海道」1981 年 6 月)

「北海道内新聞雑誌等・伊藤整参考文献目録稿」(「藤女子大学国文学雑誌」1983 年 6 月)

「白秋と伊藤整」(『白秋全集』第 31 卷 [月報] 1987 年 10 月、岩波書店)

「作家案内—日野啓三」(日野啓三『夢の島』[講談社文芸文庫] 1988 年 5 月、講談社)

「伝記小説『井原西鶴』のあとさき」(『武者小路実篤全集』第 11 卷 [月報] 1989 年 8 月、小学館)

- 「『白紙』の二人」(『石川淳全集』第5巻[月報]1989年9月、筑摩書房)
- 「作家案内―花田清輝」(花田清輝『七・錯乱の論理・二つの世界』[講談社文芸文庫]1989年10月、講談社)
- 「展望―媒介あるいはメッセージという魔術」(『日本近代文学』1990年10月)
- 「解説」(復刻版・新芸術論システム『プロレタリア芸術と形式』1991年7月、ゆまに書房)
- 「作家案内―石川淳」(石川淳『黄金伝説・雪のイヴ』[講談社文芸文庫]1991年10月、講談社)
- 「作家案内―李恢成」(李恢成『われら青春の途上にて・青丘の宿』[講談社文芸文庫]1994年5月、講談社)
- 「作家案内―花田清輝」(花田清輝『アヴァンギャルド芸術』[講談社文芸文庫]1994年10月、講談社)
- 「郊外の家―『百夜』をめぐって」(『定本花袋全集』[月報]1995年3月、臨川書店)
- 「泡鳴・貨幣・古代」(『岩野泡鳴全集』第10巻[月報]1996年4月、臨川書店)
- 「昭和前期の特質」(『時代別日本文学史辞典 現代篇』(1997年4月、東京堂出版))
- 「解説 浮上する身体」(『徳田秋声全集』第11巻 1998年3月、八木書店)
- 「声の戦争」(『太宰治全集』第5巻[月報]1998年8月、筑摩書房)
- 「感応／官能のオブジェー『羊をめぐる冒険』の「耳の女」」(『村上春樹スタディーズ01』(1999年6月、若草書房))
- 「座談会について」(『座談の愉しみ』下巻 2000年11月、岩波書店)
- 「『四十女』の遠近法」(『徳田秋声全集』第32巻[月報]2003年9月、八木書店)
- 「ほろ酔い詩歌紀行」(金陵酒造「酒林」2006年4月 ※連載中)
- 「『層々累々体』のアレゴリー」(第2次『芥川龍之介全集』第1巻[月報]2007年1月、岩波書店)
- 「〈新発見〉織田作之助の原稿「続夫婦善哉」」(『読売新聞』2007年2月19日)
- 「章解説―「戦後的」な問題の、連続と分岐へ」(『占領期雑誌資料大系

文学編Ⅲ』2010年3月、岩波書店)

「展望—通俗小説という問題」(『日本近代文学』2010年11月)

「概観—日本文学研究(近代)」(日本文藝家協会編『文藝年鑑』[2011年度版]～[2013年度版] 2012年6月～2014年6月、新潮社)

「菊池寛」(王志松・島村輝編『日本近現代文学研究』2014年8月、外語教学与研究出版)

「織田作之助」(『近代文学草稿・原稿研究事典』2015年1月、八木書店)

鼎談「母性と文学」(中野美代子・神谷忠孝 「解釈と鑑賞」1980年4月)

座談会「「語り」研究の現在—その到達点と問題点」(小森陽一・三谷邦明・金子明雄・中山昭彦 「解釈と鑑賞」1994年4月)

鼎談「日本のモダニズム運動と伊藤整」(曾根博義・関井光男 「解釈と鑑賞」1995年11月)

座談会「大正の読みかた」(金子明雄・渡辺和靖・山本芳明 「文学」2001年7月)

座談会「今日の時代と小林多喜二」(小森陽一・島村輝 「解釈と鑑賞」別冊、2006年9月)